



市公式 LINE アカウント



すかがわ
シティプロモーションサイト

発行人 須賀川市企画政策部企画政策課
企画・編集・制作 a.ru.ku 出版株式会社
令和6年12月発行

好きです わたしの すかがわ
「すかがわの人と伝統行事」

夢をつなぐノート

夢ノートシリーズ 第3弾



すかがわで育った 皆さんへ

皆さんが育った街には、市外や県外にとどまらず、
世界中の人たちに堂々と話したくなる伝統行事があることを知っていますか？

地域の人々が数百年にわたって受け継いできた祭り、

開始から10年も経っていないけれど
今まさに伝統となりつつあるイベント。

これまでの須賀川を守り、
これからの須賀川をつくる伝統行事を

皆さんにちゃんと知ってほしくて、

このノートにまとめました。

伝統をつなぐノートとなりますように。



わたしたち 「ウルトラ伝統行事調査隊！」

須賀川市の中学校から伝統行事を支える人への取材に参加する生徒を募り、
結成したのが「ウルトラ伝統行事調査隊」。
今回10の伝統行事を調査し、調査隊も積極的に取材に参加し、気になったことをどんどん質問しました。
内容は、各行事の紹介ページをチェック！

知ってつなぐ すかがわの伝統行事

須賀川の伝統行事といえば何が思い浮かびますか？

松明あかし？きうり天王？その行事には

どのような意味があるのかわかりますか。

意味を理解し、支える人たちの思いを知ると、

参加する時の気持ちや行動に変化があるかもしれません。

ぜひこのノートを読んで、参加してみてください。

伝統行事を知る

こでらさんじほうらく
「古寺山自奉楽」という行事は知っていますか。33年に一度しか行われない上小山田地区にある歴史ある行事です。須賀川には皆さんが知らない伝統行事がまだまだたくさんあるかもしれません。
まずはどのような伝統行事があるのか、自分の住んでいる地域から中心に調べてみましょう。

支える人を知る

須賀川にある伝統行事を知ったら、次にその行事を支えている人の話を聞きましょう。このノートでは、その伝統行事を中心となって支えている人に取材をしています。読んで自分なりに感じたこと、気付いたことをP22の書き込みページにまとめてみましょう。

参加する

最後にいちばん重要なのは参加すること。参加して「楽しむ」「意味を知って参加する」「支えている人に感謝する」「これらの行動のその先に、『つなげたい』そんな感情を皆さんに抱いてもらえたら、何よりうれしいです。



この街の伝統をつなぐ

すかがわ 伝統行事 MAP

円谷幸吉 メモリアルマラソン大会

昭和39年の東京オリンピックで銅メダルに輝いた須賀川市出身の円谷幸吉選手の偉業を称えるために始まった大会。須賀川市から幸吉選手のようなトップアスリートの誕生を目指しています。



須賀川市 釈迦堂川花火大会

約1万発もの花火が打ちあがる須賀川市夏の風物詩。豪華絢爛な花火を見に、毎年多くの人々が訪れます。



松明あかし

須賀川城が伊達政宗に攻め落とされた際に亡くなった人々の霊を弔う火祭り。430年以上の歴史があります。



Rojima

Rojimaは、2025年で10年目を迎えます。月に一度、様々なお店が集い多くの人々にぎわう、須賀川の街なかマルシェです。



ここで紹介しきれなかったものも含め、本市には多くの魅力的な伝統行事があります。地域の小さな行事も調べたり、参加したりしてみましょう。

伝統行事カレンダー

- 4月 上旬：須賀川さくらまつり
- 5月 中旬：牡丹俳句大会
- 7月 中旬：きうり天王祭
- 8月 下旬：須賀川市釈迦堂川花火大会
- 9月 中旬：須賀川秋祭り
下旬：相澤晃記念杯藤沼駅競走大会
- 10月 中旬：円谷幸吉メモリアルマラソン大会
下旬：いわせ悠久まつり
- 11月 上旬：松明あかし
中旬：牡丹焚火
- 2月 中旬：初寅大祭

★Rojimaは基本的に1月と8月を除く毎月第二日曜日に開催されます。

★古寺山自奉楽は2039年に開催予定です。
各行事の開催日は変更になる場合もあるので、事前にご確認ください。

いわせ 悠久まつり

国内最大級のスターマインが見られる花火大会。花火は田んぼの真ん中で打ち上げられるため、大迫力の美しさを楽しむことができます。



長沼まつり

昭和60年から始まり、令和6年で最後の開催となった長沼まつり。色鮮やかで迫力のあるねぶたやねぶたが並び、多くの人を魅了してきました。



須賀川秋祭り

毎年9月の第2・4土曜日に行われる祭り。須賀川の総鎮守である神炊館神社の例大祭で、一年に一度、神様が町内を回り安全を祈ります。



きうり天王祭

260年以上前に始まったと言われてる祭り。きゅうりを2本供え、別のきゅうりを1本持ち帰ると、1年間病気に罹らないといわれています。



牡丹焚火

大正時代から続く、牡丹の古木を燃やしながら俳句を詠む伝統行事。須賀川牡丹園内で行われ、当日は牡丹のほのかな香りが園内に漂います。



古寺山自奉楽

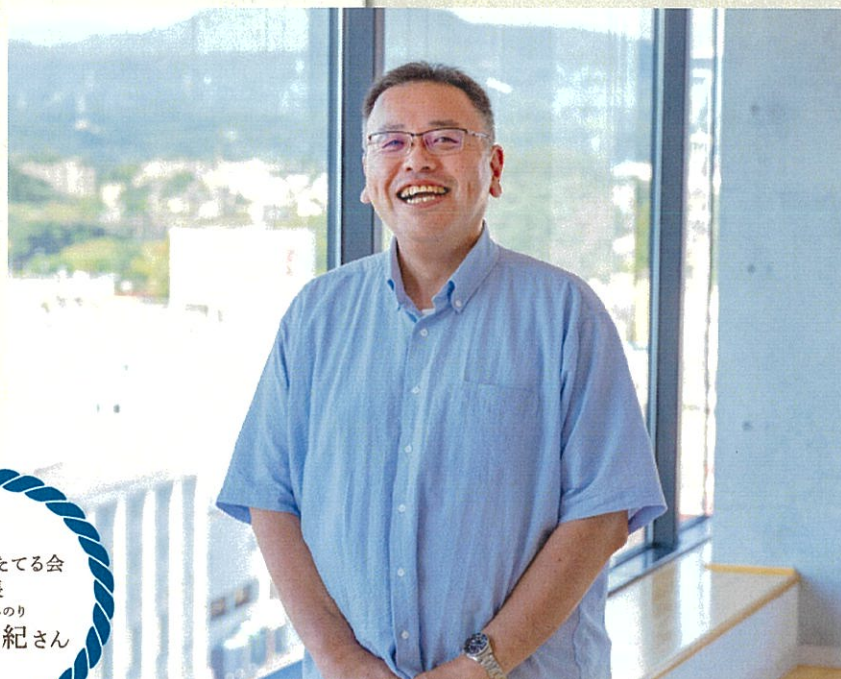
昭和49年に福島県の「重要無形民俗文化財」に指定された古寺山自奉楽。33年に一度、古寺山白山寺で行われ、子どもが踊り、豊作や安全を祈願します。



松明あかし

自分たちが作った松明は
1秒でも長く燃えてほしい

松明をもちたてる会
会長
さとう たかのり
佐藤 貴紀さん



松明あかしは全国的にも珍しい「霊祭」の火祭り

松明あかしは、伊達政宗に滅ぼされた須賀川城主とその家来、須賀川で亡くなった伊達藩の人の霊を慰める霊祭として行われている約430年続く祭りです。火祭りは全国に数多くありますが、神様を崇める目的がほとんど。霊を慰める目的で行っている火祭りは珍しいといわれています。以前は立てた松明は燃やさず、火をつけた小さな松明を手の人々が五老山に集まる行事だったのだそう。多くの人が関わる行事ですが、私たち松明をもちたてる会は、大きな松明を燃やすようになってから設立された会。40年以上、松明あかしで最も大きな直径2メートル、高さ10メートルにもなるメインの「大松明」を作っています。

直径2メートル、高さ10メートルの大松明 きれいに長く燃えるように毎年試行錯誤

松明は2ヵ月ほどかけて作り、会場となる五老山まで運び、開幕とともに着火します。松明はなるべくきれいな見た目で、一秒でも長く燃えるように意識して作っています。見た目で満足しても、きれいに燃えるとは限りません。普段の松明は人が運ぶので、中に詰める萱(い)で重くなりすぎて運び手に負担がかからないように作ります。新型コロナウイルスの拡大期はトレーラーで運ぶことになっていたので、重さを気にせず中身を詰め込んでみただけです。その時は、ものすごくきれいに燃えましたね。本番で着火した後は、燃える松明を眺めながらその年の反省会が始まります。萱を詰めるバランスなどは毎年調整しています。

松明を立てる作業は100人がかり。 20年以上、共同作業の楽しさを味わっている

特に大変なのは、松明を立てる作業です。会のメンバーと担ぎ手と、合わせて100人以上の共同作業です。松明の重さは3トンほど。人の上に倒れたら、けがでは済みませんので、毎年緊張感が漂います。私は地元の高校出身。現在、学校制作の松明は

クレーンを使っていますが、当時は人の力で立たせていました。時間をかけて大変な思いをしても30分で焼けてしまう。その気持ちはなんともいえませんが、みんなで松明を一から作って、運んで、火をつけてという作業がとても楽しかったのです。高校卒業後も松明あかしの手伝いをしていたことが会に入るきっかけになり、20年以上続けています。

課題は松明作りを地域でどう伝えていくか

会員は20～70代の25人。女性がほとんどで、最近は外国人のメンバーも加わりました。作るにしろ、立てるにしろ、息が合わないとうまくいきませんので、会ではチームワークを最も大切にしています。人数が多いから良いというわけではないのです。学校での松明作りはこれまで、地域の方が教えて支えてくれていました。しかし、指導者が高齢になり指導が難しくなるケースも増えています。今の課題は、松明作りをどう地域で伝えていくか。本当は私たちが学校に行きたい気持ちもあるのですが、平日の仕事との両立はなかなか難しい。みなさんも学校で松明作りの楽しさを感じてもらえたら、卒業後にぜひ私たちの会に入ってください、伝統をつないでもらいたいです。



「何年かに一度、満足のいく仕上がりにすると燃やしたくない気持ちになります」と佐藤さん。燃やすために作るということは、時に切なく感じることもあるのだそうです。

松明あかしで つなげたいこと

- 一 みんなで集まって一つのことをする楽しさ
- 二 地元の自慢になるということ。
地元の魅力を知っていることは素敵なことです。
市外に出て「地元には有名な祭りはある？」
と聞かれた時に胸を張って松明あかしと言って
ほしいです。
- 三 自分が楽しめることを見つけて松明あかしに
関わってほしいということ。私は松明づくりでしたが、
松明太鼓でも良いです。
好きを見つけることがバトンをつなぐことになります。



須賀川市内の学校や企業など
例年20本ほどの松明が立てられます。

松明あかしが開催されるまで



1 松明の材料は9月の中旬から調達します。外枠となる竹を切りに行き、中に詰める萱を刈り取って集めます。本体を作ったら量のごさを縫い合わせ、竹を輪にしてはめ込んで、完成。



2 松明あかしの当日は、午前中に「てこの原理」を使って松明を立てます。指示役が情報を伝えながらつっかえ棒を使い、50分ほどかけて立ち上げます。



3 開幕とともに着火されるのは私たちの大松明。その年頑張ったメンバーが着火役として10メートルの松明を上ります。はしごを使わないので、それなりの体力が必要です。

中学生からの質問

- Q 10メートルもある松明に上って火をつけるのは危ないように見えますが、カッコいいです。
- A 危ないですね。会も高齢化しているので、はしごを使って上る方法も検討しないといけないと思っています。中学生は生徒会長が点火するので、点火してみたらぜひ会長に立候補してみてください！
- Q 松明太鼓のチームに入っていて、本番は練習をしながら松明が立てられる様子を見たいです。あんなに大きな松明を人の力で立てるなんて、すごいです。
- A 私は松明を立てる時、全体に指示を出す役割。それぞれの担当に情報を伝えるのは大変です。準備中に太鼓の音が聞こえると、「松明あかしが始まるんだな」と身が引き締まります。



松明に火をつける役割に興味がありました。

小学4年生から松明太鼓をやっています。松明を立てる様子を見ていたので思いを知れて良かったです。



須賀川市立第二中学校 佐藤さん



須賀川市立井田中学校 三浦さん

きうり天王祭

長く続く祭りを
守り続ける力ギは「不易流行」きうり天王祭
総括実行委員長
わたなべ たつお
渡邊 達雄さん

疫病の神様にきゅうりを奉納

きうり天王祭は、疫病を防ぎ鎮めてくれる神様「牛頭(にず)天王」にきゅうりを2本お供えし、お守りの代わりに1本を持ち帰って食べると、その1年を健康に過ごせると伝えられている祭りです。280年以上続く市内の古い祭りの一つで、例年、須賀川市民のおよそ半数にあたる4～5万人が訪れます。起源は京都にある八坂神社の祭り。そこから全国に広がったうちの一つが須賀川市のきうり天王祭です。須賀川市は古くからきゅうりの名産地。昔の人がお賽銭の代わりにきゅうりを奉納した文化が、今まで伝わっています。時代とともになくなってしまった地域も多いですが、似たような祭りは形を変えて全国にあるのです。

三丁目町内会が役割分担をしながら開催

祭りは、きゅうりを奉納する御飯屋(おかりや)が立てられる三丁目(南町)町内会が主催します。祭りをするには、お金が必要です。きゅうりを奉納するともらえるうちわには、協賛金を寄せてくれる企業名が書かれています。若い人から高齢者まで、住民の年代が幅広いこともこの町内会の特徴。若い人を中心とした青壮年会の担当は、この協賛企業集めです。町内会でしっかり役割分担をすることで、祭りが継続できるのです。老人クラブや女性会、地域の育成会が加わると、祭りに関わる人は総勢100人にもなります。

新型コロナで3年間の中断。

途絶えさせないという強い思いで再開を実現

きうり天王が中断したのは、戦時中と2019～2022年の新型コロナウイルス感染拡大時期だけ。疫病を除ける神様にまつわる祭りができないことは心苦しかったです。けれども我々の時代で途絶えさせるわけにはいかないという思いが強く、プライドとして祭りを続ける決意を、ことあるごとに町内の方にお伝えしていました。3年間休んで再開した時は、いろんな段取りを忘れてしまっていてなかなか大変でした。しかし、80歳を超えて元気でいら

れるのは、生まれた頃から牛頭天王に守られているから。そう思えるからこそ、祭りの準備も気楽に進めることができました。

形を変えながら続けられてきた祭り。
2025年には新たな一歩も

長い歴史があるきうり天王祭は、形を変えながら続けられてきました。旭ヶ丘公園の岩瀬神社で開かれていた祭りを、市民が参拝しやすいように三丁目に御飯屋を立てる形に変えたのもそう(諸説あり)。きゅうりを2本に限らず、思いのぶんだけ奉納していた時代もあったそうです。御飯屋はこれまで車道を封鎖して立てていましたが、2025年には町内に東屋のある公園ができ、幕を張れば御飯屋の代わりにできるようになります。これまでは業者を手配して御飯屋を立て、祭りが終わったら町内総出で片づけていたので、その負担は少なくなりそうですが、実際にやってみないとわからないですね。「不易流行」という言葉があります。芯は残して、時代に合わせるべきところは合わせる。それが、この祭りを後世に繋げる道なのだと思います。



15年ほど実行委員長を務める渡邊さん。
子どもの頃から当たり前のようきうり天王祭に関わってきたといいます。

きうり天王祭で
つなげたいこと

- 一 時代によって形を変えながらきうり天王祭を続けていくこと。
- 二 三丁目町内会がひとつにまとまって祭りを続けていってほしい。目的のために力を合わせて頑張らないと祭りというものは消えてしまいます。
- 三 この地域を将来にわたりつないでいく気構え。「自分さえ良ければ」ではなく、話し合っで地域を盛り上げていく気持ちをいつまでも持ってほしいです。



御飯屋には毎年2万本ほどのきゅうりが奉納されます。

きうり天王祭が開催されるまで



初日となる13日の「お迎え祭」に向けて御飯屋を建てます。現在は安全に配慮して専門の業者に依頼していますが、以前は地元の建築関係の職人が担当していました。



13日の午後、神炊館神社から宮司の須田さん(P10)がきうり天王のご神体を御飯屋奥のみこしにうつします。ご神体は白い布に巻かれ、中身はわからないのだそう。



14日はきゅうりを奉納する「宵祭り」。15日午前の「本祭り」が終わった午後には御飯屋を解体して、翌朝には三丁目町内会総出で部材を倉庫に運び入れます。

中学生からの質問

Q 祭りを準備する中でのやりがいを教えてください。

A 普段は町内の方と話をすることはほとんどありませんが、祭りの準備では話し合いをしながら、同じ目標に向かって進めることが一番の楽しみです。おいしいものを食べたり、お酒を飲んだりするのも一つの楽しみです。

Q 須賀川市外の方も来ることがあるのですか？

A はい、あります。しかし、きゅうりは使わずとも「天王祭」と呼ばれる祭りは各地にあります。自分が住んでいる地域の祭りを楽しむことが、一番ご利益があると思います。



祭りの歴史を知り、来年のきうり天王祭は新しい視点で楽しめそうです。

どうしてきゅうりを奉納するのがわかって良かったです。



須賀川市立第三中学校 箭内さん



須賀川市立大東中学校 関根さん

須賀川秋祭り

祭りは地域の誇り。みこしの担ぎ手の輪を地域の子どもたちにつなげたい



おたきや
神炊館神社
宮司
すだ ともひろ
須田 智博さん



須田さんとともに町内を巡る「本みこし」。
威勢の良い掛け声とともに担がれます。

秋祭りは神様が町内を巡るめでたい日

神炊館(おたきや)神社は須賀川の「総鎮守(そうちんじゅ)」です。総鎮守とは地域全体の守り神のことで、どの地域にも一つはあります。須賀川秋祭りは「例大祭(れいたいさい)」と呼ばれる総鎮守の一番大事な祭りで、450年ほどの歴史があります。秋祭りの日は、いつもは神社に行かないとお参りできない神様がみこしに乗って町内を巡り、地域の安全を祈ってくれます。みこしを担ぐのは、須賀川市のまちなかに位置する30ヵ所の町内会の人たち。1日目は各町内会のみこしが神炊館神社に集まり、2日目は神社から神様が乗った「本みこし」が町内を巡ります。屋台が並んで、にぎやかに楽しむことも大切な行事の一つなんですよ。

地域のみなさんが迎えてくれることがうれしい!

本みこしに乗る神様は「ご神体(しんたい)」に宿っています。私たち神主は、ご神体を本みこしにうつす前の儀式(神事)として、神様へ食事を捧げるなどして感謝を伝えます。その後、宮司である私は本みこしと一緒に旗場と呼ばれる各町内会の目印を巡り、地域のお祓いをします。みこしが来るのをみなさんが待っていて、神様を迎えてくれる。それを間近で見られるのは、うれしいことです。みこしの担ぎ手は減っていますが、若い人は増えていきます。地域の祭りや伝統は、それを担う人がいないとなくなってしまう。秋祭りに限らず、祭りは地域の誇り。みこしが来るエリアにお住まいのみなさんは、ぜひ一度みこしを担いでみてください。それが、自分たちの祭りをつなぐ一歩になります。



北海道出身の須田さん。須賀川市民は地域の歴史や文化に誇りを持っており、地元愛が強いと感じるのだそう。

須賀川秋祭りて つなげたいこと

- 一 祭りはただ楽しいイベントではなく「神事」であること。地域の安全を守りたいという人の思いが乗っているからこそ、長く続けられているのです。
- 二 神社や地域の祭りは、小さなものでも一つひとつが日本の文化を形づくるもの。住んでいる地域の祭りをぜひ大切にしてください。
- 三 祭りをやっている「地域の方々」って誰なのでしょう？それは誰かではなく、自分なのかも。そうした視点をちょっとでも持つてもらえると嬉しいです。

中学生からの質問

Q 秋祭りの日は、ほかの神社の神主もお手伝いに来ると聞きました。どんなことを手伝うのですか？

A 例大祭の神事では、10人ほどの神主が役割分担して神様に感謝を伝えます。お祓いをしたり、感謝を伝える「祝詞(のりと)」をあげたり。太鼓を叩いたり、笛を吹いたりする役目もあります。



地域に祭りがある理由がわかって面白かったです!

須賀川市立西袋中学校 小林さん



牡丹焚火

牡丹の街 須賀川市は
俳句が盛んな街。
牡丹や俳句を愛する心を伝えたい



参加者は焚火を見つめ、そこから感じたことを俳句にしためます。



きつこうざんしゃ
桔槔吟社
同人会幹事長
さとう たけのり
佐藤 健則さん

「牡丹焚火」は初冬の季語。 同じ風景でも生まれる俳句は変化する

牡丹焚火は今から100年以上前、地元の俳人が須賀川牡丹園で始めた行事です。牡丹の枯れ枝を供養の意を込めて焚き、それを囲んで俳句を詠むのです。牡丹の枝は紫色や緑青色(ろくしょういろ)に燃え、心地良い馥郁(ふいく)たる香りが辺りに漂います。花の精を思わせるその炎は多くの名句を生み、「牡丹焚火」は初冬の季語として、四季の風物などをまとめた書物『歳時記』に収載されています。「松明あかし」も同じく『歳時記』に収載されており、須賀川市のような地方都市に季語が2つも入るのは大変珍しいこと。須賀川市が江戸時代から俳句が盛んであることを裏付けています。同じ人が同じ景色を見ても、その時の心情や時代によって、生まれる句は変わる。それが俳句のおもしろいところです。

寒い日でも汗だくの火守の仕事

私たち桔槔吟社は、長年牡丹焚火の運営に携わっています。私は10年以上、焚火を管理する「火守(ひもり)」を担当。大輪の花を咲かせてくれた牡丹の枯れ枝に感謝を込め供養するために、火をおこし、枝をくべています。火守は常に火の近くにいるので、寒い日でも全身汗だくです。牡丹の栽培技術の向上等により、牡丹園から出る枯れ枝が減ってきています。ですので、みなさんの自宅に牡丹の木があればぜひ枯れ枝を寄せてください。牡丹焚火は、牡丹を大切にしたい須賀川ならではの行事。続けていくためにも、先人たちと同じように牡丹や俳句を愛する心を伝えていきたいです。



牡丹焚火での佐藤さんの近年の一句は、鼻濁音のやさしい「すかがわ」を詠った、「すかがわの響きはやさし牡丹焚く」。

牡丹焚火て つなげたいこと

- 一 牡丹焚火の歴史と伝統。どのような歴史があって成り立っているのかを知れば、おのずと愛着が湧いてくるのではないのでしょうか。
- 二 牡丹焚火という独自の風流を愛する心。牡丹焚火は、牡丹が咲いてくれたことへの感謝の心、その枯れ枝に感謝して供養するという慈しみの心を学べる行事だと思います。
- 三 須賀川市への郷土愛。この牡丹焚火を通じて、ぜひ育てていただきたいです。

中学生からの質問

Q 火守のやりがいとはどんなことですか？

A 須賀川市の伝統行事を守ることにより多少なりとも寄与できること。それに、皆さんが焚火に感銘を受け満足して帰っていただけることです。



見ているだけではわからない裏側の話を聞けて良かったです!

須賀川市立義務教育学校稲田学園 吉成さん



古寺山自奉楽

自奉楽は地域の大切な財産。
その価値を伝え、伝統を残したい



古寺山自奉楽
保存会
くまがい とめまさ
(右)会長 熊谷 留正さん
くまがい こうじ
(左)熊谷 幸司さん



保存会が仕立てたお揃いの着物を着て踊りを奉納します。

270年以上の歴史を誇る豊作祈願の踊り。
年1回の歌い初めと月1回の練習で継承に努める

古寺山自奉楽は、須賀川市東部の上小山田地区に宝暦2(1752)年から伝わる豊作祈願の踊りです。地区にある白山寺(はくさんじ)という古いお寺の観音堂の前で奉納されます。行事は33年に一度。270年以上の歴史がありながら、次回2039年でまだ10回目という貴重な踊りです。1974年には福島県の重要無形民俗文化財に指定されました。地域では、この貴重な踊りを途切れさせないよう、戦後すぐに保存会を結成。毎年旧暦の正月2日に「歌い初め」として踊り・歌・笛の師匠たちによる練習会を行うほか、毎月1回を目標に練習日を設け、正確な継承に努めています。

前回33名いた子どもが現在は数名に。
総合学習などを通じ子どもたちに興味を持ってほしい

自奉楽を踊るのは、5歳～中学生程度の地域の子どもたち。観音堂の舞庭を清める「平鉄(ひらくわ)踊り」、1年間の稲作の作業を表現しながら豊作を祈願する「田植踊り」、悪魔を追い払い豊作を願う「獅子舞」の3部構成で、2時間近くかけて踊ります。前回の奉納では33名が踊りましたが、少子化が進み、現在練習に参加しているのはわずか数名。踊りは子どもが多いほど華やかになりますので、子どもをどう集めるかが最も大きな課題です。地元の小学校の総合学習で踊りを教えるなどの活動もしていますので、そうした中から自奉楽に興味を持ち、一緒に活動したいと思ってくれる子どもが現れてくれたらうれしいです。



33年に一度の奉納に加え、県や市のイベントで踊りを披露するなどして認知度アップに取り組んでいます。

古寺山自奉楽で つなげたいこと

- 一 先人が受け継いできた歴史ある踊りを途切れさせたくありません。地域の大切な財産。その価値を子どもたちに伝えたいです。
- 二 踊り手の確保と同時に、保存会の高齢化も課題です。次の奉納は15年後。そのときに中心となって動いてくれるような人に会を引き継ぎたいです。
- 三 少子化が進み、上小山田地区だけでは子どもの数を確保できなくなりました。今後は自奉楽をきっかけに周辺の集落とよりつながっていきたいです。

中学生からの質問

Q 子どもたちだけで踊るのはなぜですか？

A 白山寺の住職だった清光和尚(せいこうこうしやう)が子どもたちがかわいらしく踊る姿を村人に見せることで寄付を集め、当時荒れ果てていた白山寺を再興しようと考えたのだと思います。それが今日まで残り、定着しました。

松明太鼓をやっています。伝統文化に興味があり参加しました。

自分の地区にも同じような踊りがあるので興味を持ちました。



須賀川市立第三中学校 野川 さん



須賀川市立大東中学校 関根 さん

「花火すごかったね」と満足そうな
来場者の表情を見れることがやりがい

いわせ悠久まつり



岩瀬商工会
事務局長
さとう ひろし
佐藤 広 さん



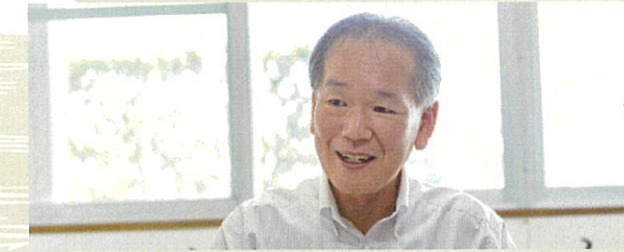
いわせ悠久まつりの花火は、高い建物がない場所だからこそ感じられる迫力があります。

岩瀬地区や市外の企業の協力で打ち上げる
国内最大級のスターマイン

いわせ悠久まつりは、岩瀬商工会や地域関係団体から構成されるいわせふるさとづくり実行委員会が開催する花火大会です。会員事業所の一つである花火屋・糸井火工(かこう)の協力を迎え、国内最大級のスターマインが打ち上げられます。遮るものがない田んぼから打ち上げられる推定5千発の花火は圧巻で、全国から観光客が訪れるイベントになりました。1989年に行われた初回のまつりでは、花火は少ししか打ち上げられなかったんです。会員事業所のほか、会員事業所とつながりのある市外の会社からも多くの協賛金をいただいているからこそ、これだけの規模で花火大会ができるのです。

運営するのは地域を中心に約100人。
子どもたちに手伝ってもらえるような場面を作りたい

花火大会をするために必要なのが、打ち上げ会場となる田んぼの所有者のご協力です。当日までに稲刈りをしていただき、終わったら花火のごみをきれいに片づけてお返しします。運営は、消防団や交通安全協会、防犯協会や須賀川信用金庫の協力を迎え、計100名ほどが関わっています。昔は地域の若い方にも協力いただけていましたが、近年は高齢化で人手不足。今後は、まつりを子どもたちに手伝ってもらえるような場面を作れると良いと考えています。本番中はトラブルがないか見回りで忙しく、花火を見ている暇もありませんが、すごいと言いながら満足げに帰っていく来場者の表情を見るとやりがいを感じます。



観覧者が撮影した写真や動画を見るのも楽しめという佐藤さん。

いわせ悠久まつりで つなげたいこと

- 一 協賛企業の紹介を通じて、岩瀬地区の子どもたちに地元企業のことを知ってもらいたいです。
- 二 協賛企業が協力してくれていることで大きな花火大会ができること。出店などに人が集まり、地域の経済が循環していることも覚えておいてほしいです。
- 三 時代の移り変わりに応じて、効率よく運営の形を変えていくことです。

中学生からの質問

Q どうやって音楽に合わせて花火を打ち上げているのですか？

A スイッチ一つで音楽に合わせて花火が打ち上げられるようにシステム化されています。

Q まつりの運営にはお金がかかると聞きました。値上がりで困っているものはどんなものですか？

A 花火もそうですが、広告宣伝や資材も値上がりしています。だからこそ、協賛してくれる企業には感謝しています。

いわせ悠久まつりでは、Adoの「新時代」の曲で打ちあがる花火が思い出に残っています。

まつりの歴史や、携わる人の努力を感じました。行ってみたい！



須賀川市岩瀬中学校 森合 さん



須賀川市立第一中学校 吉田 さん

須賀川市 釈迦堂川花火大会

花火ほどたくさんの人を同時に感動させられるものはありません



有限会社糸井火工
代表取締役
いとい しゅういち
糸井 秀一さん



音楽創作花火やミュージックスターメイン、ナイアガラなど多彩なプログラムで毎年30万人ほどの来場者を魅了しています。

糸井火工は県南地域唯一の花火屋。
釈迦堂川花火大会の7割以上の花火を製造

糸井火工は釈迦堂川花火大会ではメインで打ち上げを担当しています。釈迦堂川花火大会は約1万発が打ち上げられる、県内最大級の花火大会。日本全国の花火師の作品を見ることができ、糸井火工ではフィナーレを飾る10号玉を含む6,000発を作っています。花火は冬〜春に製造し、7月末ごろにどのように花火を打ち上げるかを考え、プログラムを作成。その後、実際に打ち上げるものを選び、花火筒に入れておきます。花火大会当日は花火筒を朝一番でトラックに詰め込み、輸送して会場で設置。打ち上げは昔のように直火ではなくコンピュータで指示を出し、電気を使って点火します。以前より安全に花火を打ち上げられるようになりましたが、花火は火薬の塊なので扱いには緊張感が漂います。

打ち上げ後のごみは8トン以上にも

打ち上げが終わった後は片付けがあります。ごみはすべて拾うと8トン以上に。会社に戻るのは深夜1時、積み下ろしをすれば、解散は2時ごろになります。釈迦堂川花火大会は、私たちのほかにも、イベントを企画する人や音響設備を担当する人、警備関係の人など、約500人もの人たちで作られています。協賛企業の協力も大きい。私は、花火ほど多くの人を同時に感動させるイベントはないと思います。お客さんに「きれいだったよ」と温かい言葉をかけてもらえることが、何よりのやりがいです。



20年以上、釈迦堂川花火大会で打ち上げられる花火を作ってきたという糸井さん。

つなげたいこと

- 1 たくさんのいろんな立場の人が参加して花火大会ができること。見る側としてだけでなく、ごみを持ち帰る・拾うといったところから、何か一つでも花火大会に関わってもらいたいです。
- 2 釈迦堂川花火大会を須賀川市の誇りだと思ってほしいです。
- 3 やれない理由を探すより、やれる方法を探す意識。今後、花火大会ができなくなるような何かが起こった時にも、こうした意識があれば続けていくことができると思います。

中学生からの質問

- Q 花火作りや打ち上げは大変なのに、どうして続けられるのですか？
- A みんなが喜んでくれるから。それだけで、暑くてもつらくても続けられます。
- Q 花火は種類によって作り方は変わるのですか？
- A 種類や色、形によって変わります。花火の火薬の詰め方は無限に種類があるんですよ。



須賀川市立第三中学校 半谷さん 須賀川市立第一中学校 伊藤さん

円谷幸吉メモリアル マラソン大会

「第二の円谷」育成へ。子どもたちが成長できる大会にし続けたい



2024年は約1,900人がエントリー。全国からランナーが集う大会です。



須賀川市スポーツ
振興協会
おねた げんき
(右)太田 元紀さん
円谷ランナーズコーチ
さいじょう はるか
(右)西條 晴佳さん

主催者の仕事は準備が9割

円谷幸吉メモリアルマラソン大会は、1964年の東京五輪で須賀川市出身の円谷幸吉選手が銅メダルとなったことを記念し、「第二の円谷」を育成するために開始。当初は岩瀬郡の中学生だけの大会でしたが、対象を拡大し、1986年に現在の名称になりました。大会側ではスムーズな運営のためにさまざまな準備をしています。例えば公道を通行止めにして行うので、沿道の住民のみならず、協力者の依頼や、毎年総勢400人ほど集まる給水やコース誘導してくださるボランティアの方々への仕事の割り振りなど様々です。3月ごろから準備が始めますが、仕上がりによって大会の形が変わってしまうので気が抜けません。このマラソンは2025年度で43回目を迎えますが、毎回改善点が見つかります。前回より良い大会にしようと、毎年試行錯誤しています。

走ることの楽しさを教えてくれた大会に貢献したい

私は長距離走の選手で、走ることの楽しさを教えてくれたこの大会の運営に携わりたくて現在の仕事に就きました。子どもたちにとって成長につながるような大会であり続けられるように、運営を頑張っていきたいと思っています。

人としての成長も感じられる大会
円谷ランナーズコーチ 西條晴佳さん

円谷ランナーズは、メモリアルマラソンと同じく「第二の円谷」を発掘することを目的とした小中学生のスポ少です。毎年約40人がメモリアルマラソンに出場しています。子どもたちのタイムが大会で伸びて、人間としての成長も実感できることがやりがいです。

太田さんと西條さんは
幼馴染。違う立場で
大会を支え、つないでいる。



つなげたいこと

- 1 円谷幸吉選手の功績。須賀川市からオリンピックでメダルを取るような選手が出ていることを、この大会を通じて広く伝えていきたいです。
- 2 相澤選手は第二の円谷といわれています。これからも世界に羽ばたく第三、第四の円谷を出していける大会として、子どもたちが切磋琢磨できる環境を整えていきたいです。
- 3 地域の方やボランティア、協賛企業の協力体制。みなさんの協力があるからこそ大会が続けられています。

中学生からの質問

- Q 大会運営のやりがいとはどんなことですか。
- A 事故なく安全に終われるとほっとします。市内だけではなく、県外からも多くの人が参加してくれることはうれしいです。副賞や参加賞など、その年参加してくださった方が来年も参加してもらえるような工夫もしています。県内外の大きな大会を参考にしながら考えるのもやりがいがあります。



須賀川市立小塩江中学校 吉田さん 須賀川市立小塩江中学校 佐藤さん

長沼まつり

みんなが主役で、
誰もが輪に入れるまつり。
これまでの思いは次の世代に託したい



実行委員長
とだ しゅういち
戸田 修一さん

2024年まで約40年続いた長沼町(地域)の伝統。
きっかけは譲り受けた一台のねぶた

長沼まつりは1985年から2024年まで、長沼町時代から約40年続けられてきたまつりです。メインは、地元住民が手作りし、明かりを灯した巨大な灯ろう「ねぶた」「ねぶた」。その様子は長沼の秋の風物詩といわれていました。私は長沼まつりの立ち上げ当初から運営に携わっています。きっかけは、会津の団体が作ったねぶたが須賀川秋祭り(P10)にやってきたこと。その後のねぶたの行き先を探しているという情報を聞き、私も入っていた当時の長沼町の青年サークルが手を挙げたんです。それまで、長沼町全体のまつりというものはありませんでした。子どもみこしに声を掛け、提灯を飾り、長沼音頭の踊り流しをする。そしてねぶたを担ぐまつりを試しにやってみよう。そんなことから始まったのです。

驚くほどの人出で継続を決意。

本格的にねぶた作りを習いに行くように

1回限りのつもりで企画をし、人出も期待していませんでした。しかし当日になると3,000人ほどの人が来てくれたんです。驚きました。「こうしたまつりが地域で求められているのかもしれない。終わらずわけにはいかない」。そう腹をくり、本場・青森市の有名なねぶた師のところへねぶたの作り方を習いに出かけました。インターネットのない時代、情報は行かないと手に入れることはできません。それが地域に伝わり、学校に伝わり、一番多い時で、ねぶた24基が練り歩く、ものすごい熱気のあるまつりに成長しました。

長沼まつりの日は町民(市民)が力を結集する日

ねぶたは間に合わせや数人で作ったようなほのぼのとした作品もありました。その一方で、本場で披露できるぐらい本格的な作品もあるんです。さまざまなねぶたが入り混じってつくられるハーモニーが非常に面白くて、みんなが主役。これが長沼まつりの良さだと思いますし、見に来ている人はそれを含めて楽しいので

しょうね。長沼町(地域)には何もない。だからこそ、長沼まつりの日は力を結集できたのだと思います。長沼音頭が始まれば、輪の中にいる人も、駐車場で交通整理している人も一緒に踊り始める。誰もが気持ちよくその場に入れる雰囲気があるからこそ、長く続くまつりにできたのでしょう。

長沼まつりを通じて地域を盛り上げてきた
大人たちがいたことを覚えておいてほしい

長沼まつりを持続したい気持ちは山々でしたが、2024年で幕を下ろす決断をしました。理由は、新型コロナの影響でねぶた・ねぶたの参加団体が減ったこと。もう一つは実行委員会の高齢化で、人がたくさん来るような状況に対応することが難しくなってしまったのです。私が代表になって約20年。何度も次の世代にバトンを渡そうとしましたが、うまく任せることができませんでした。私は町内町外関係なく、来てくれた人が楽しめることだけを考えてまつりを運営していました。若い世代のみなさんには、地域を盛り上げるために何かを始めて、40年間やってきた大人たちがいたことを覚えておいていただきたいです。そしてその記憶が、将来この地域で何かが生まれるきっかけになってほしいと願っています。



長年実行委員長を務め、学校などで長沼まつりの伝統を語る活動も続けてきた戸田さん。

長沼まつりて
つなげたいこと

- 一 長沼まつりの記憶をとどめておいてほしいです。いつか地元からまた何かをやらうという動きがあればバトンタッチしたいですね。
- 二 地域の行事に参加すること。長沼まつりのねぶたもそうですが、子どもたちが参加すると上の世代が元気になると思います。
- 三 やりたいことがあった時、雑草のようにしぶとく生きていくこと。私自身もその心で運営を続けていました。



ねぶたのモチーフで定番の、平将門をかたどった作品。



「ラッセーラー・ラッセーラー」の掛け声とともに担がれるねぶた・ねぶた。

長沼まつりが開催されるまで



ねぶたの参加団体の一つ「私たちのねぶた愛好会」の制作風景。ワイヤーで作る型に貼る和紙や、色を染める「染め粉」は本場・青森から取り寄せています。



私たちのねぶた愛好会の2024年のモチーフは、何事も諦めない武将・山中鹿之助。滅ぼされた主家の再興を目指し奮闘した姿に、まつりの復活への願いを重ねたのだそう。



いよいよ本番！山車の中央には車輪が付いていて、回転しながら沿道の観客に全体を見せます。有終の美を飾る力作に、観客からは拍手が起きました。

中学生からの質問

Q 長沼まつりで楽しみにしていることはどんなことですか？

A 参加している人がニコニコ楽しそうに踊って、跳ねている姿を見られることです。それがいつまでもみなさんの記憶に残っていてくれたら、これ以上のことはありません。

長沼まつりは、私も
おばあちゃんも大好き。
最後の長沼まつりを前に
戸田さんの話が聞けて
良かったです。



須賀川市立長沼中学校 鈴木さん



さまざまな団体がねぶた・ねぶた作りで利用しているながめうラボ。取材した8月上旬は下絵段階の作品も数多くありました。

Rojima

10年続いている街なかマルシェ。
できるだけ早く若い世代に
バトンタッチしたい

一般社団法人ロジカラ
たていし だいすけ
立石 大輔さん



街に再び人が集まる機会をつくり、 エリアの価値を高めたかった

Rojimaは2015年にスタートしました。須賀川の中心部は、かつては城下町として栄え、江戸時代には松尾芭蕉が滞在したことも知られています。しかし、平成以降は徐々に空き家や空きビル、空き地が増え、東日本大震災後はさらに空洞化が進みました。私は普段は須賀川市役所で働いており、仕事で地域の方々と触れ合う機会が多かったのですが、街の活気が失われてゆくことへの危機感を耳にすることも増えていました。街に残るストックを有効活用しながら、街に再び人が集まるような機会をつくれませんか。それによってエリアの価値をさらに高め、にぎわいを取り戻せないか。そう思ったことが、Rojimaをスタートさせた大きなきっかけです。

良い意味でしつこく続けてきたことが、 信頼やブランディングにつながった

Rojimaは基本的に毎月第2日曜日に開催しています。第1回の出店者は25組。知り合いに出店をお願いしてのスタートでした。そこから回を追うごとに出店者が増え、200組近い方々に出店していただいたことも。県内だけでなく、遠くは青森や京都からキッチンカーで出店してくださる方もいます。お客さまも各地からいらっしゃいますね。市内・県内はもちろん、駐車場を見ると、新潟、仙台、水戸、那須、宇都宮などのナンバープレートをよく見かけます。正直、最初は「イベントを毎月やるなんて絶対に無理」って思っていたんです。でも、地域の方々のご協力を得ながら、良い意味でしつこくやってきたことが信頼やブランディングにつながり、多くの人が集まるイベントに育ったのだと思います。

学校でも家でもない「サードプレイス」を 街と関わることで見つけてほしい

街のことを考えるのと同時に、自分達の学びの場が欲しかったことも、Rojima立ち上げの一つの理由でした。職場とも家庭とも違う、

日々の生活からはなかなか生まれない発想を学ぶ、いわゆる「サードプレイス」が欲しかったんです。運営には、私と同じ市役所に勤務する仲間や、地域で働く民間の方々など、似たような考えを持つ10数名のスタッフが、それぞれの得意なスキルを活かしながら参加し、大学生の力も借り、活動してきました。そして、彼らとの活動から、普段は気づくことができないようなさまざまな発見を得ることができました。みなさんも、地域の行事などに積極的に関わり、学校や家とは違うサードプレイスを見つけて欲しいです。

無理なく、できる範囲で、楽しく。 楽しくできれば、自然に続けていけるはず

Rojimaは2025年で10周年。Rojimaをきっかけに街なかに店舗を構える方も出てきて、多少の効果はあったのかなと感じています。街ににぎわいを取り戻すという当初のビジョンはある程度達成できたと思うので、今後は、イベントをどう次の世代に継承していくかが課題です。続けるコツは、無理なくやること。できる人が、できる範囲で、楽しく。特に「楽しく」が重要ですね。きっと勉強も同じ。楽しくできれば、自然と続けていけるはずなんです。



「参加したい人はぜひ積極的に手を挙げてほしいです。僕らもいつか歳を取りますから」と笑う立石さん。

Rojimaで つなげたいこと

- 一 できるだけ早いタイミングで若い人たちに運営をバトンタッチしたいと思っています。最近ではボランティアで運営に関わってくれる高校生も増えていきます。
- 二 中心地の街の魅力を、Rojimaを通じて若い人に伝えたい。そして、その魅力を次の世代にも語り継いでほしいです。
- 三 出店者さん同士、お客さん同士をつなげることもRojimaの大きなテーマの一つ。実際、Rojimaでの出会いをきっかけに独自イベントを企画するグループが生まれるなど、いろんな効果が見られます。



Rojimaは街全体がマルシェ会場。
キッチンカーは全国各地から集まります。



所狭しと並ぶブース。出店者さん同士で新たな出会いが生まれるのも魅力です。

Rojimaが開催されるまで



1 毎月のイベント開催に向けてスタッフで会議を実施。店舗の一部を一般社団法人ロジカラの事務所として借りています。パンフレットはデザインもこだわり、スタッフが作ります。



2 Rojima 当日。スタッフは、事故やトラブルが起きていないか巡回したり、駐車場で車を誘導したりしながら、安全な運営にあたります。



3 イベントは午前10時から午後3時まで。朝6時から準備を開始し、片付けは夜遅くまでかかることもあります。街のにぎわいを見ることがやりがいです。

中学生からの質問

Q どうしてこんなに大きなイベントにできたのですか？

A 目的はあくまで街の活性化で、イベント自体を大きくするつもりはなかったんです。たくさんのお店者が集まり、まわりの出店者の方とつながってくれたからこそ、大きくなったのだと思います。

Q デザインや絵を描くことに興味があり、パンフレットのデザインが毎回素敵だなと思っています。誰が作っているんですか？

A スタッフの男性が夜中に自宅で作っています。彼も私と同じ市役所の職員で、デザインを本業にしているわけではありません。彼に限らず、それぞれができることを持ち寄ってイベントを作っています。



母が雑貨の販売やワークショップで Rojima に出店したことがあります！

雑貨屋さんに行くより Rojima に行ったほうが欲しいものが見つかるんです！



須賀川市立第二中学校 深谷さん



須賀川市立第三中学校 箭内さん



取材をして新たな気付きはありましたか？

一中 伊藤（須賀川釈迦堂川花火大会取材）

花火をつくる糸井火工に行きましたが、作る工程や大会当日の早朝からの準備の話を聞き、1発1発をもっとちゃんと見たいと思いました。

三中 半谷（須賀川釈迦堂川花火大会取材）

花火の後の片付けが大変なことが分かりました。綺麗な花火大会の後に、ボランティアや花火師の方がごみを拾う作業があることを知りました。

長沼中 鈴木（長沼まつり取材）

長沼まつりのねぶたは、毎年5月ごろからつくり始め、1つ1つ筆で絵を描くので、細かい作業が大変だなと思いました。長沼まつりは今年（2024年）で最後になるので、地域の方との交流がなくなるのが寂しいです。

西袋中 小林（須賀川秋祭り取材）

神炊館神社の宮司さんが、秋祭りも、きうり天王祭もただ屋台に行くとかではなく、ちゃんと祭りを理解したうえで楽しんで欲しいと言っていました。

岩瀬中 森合（いわせ悠久まつり取材）

いわせ悠久まつりは15年ほど続いている祭りで、商工会や消防、地域の方々の協力で成り立っているのが分かりました。改めて人とのつながりの大切さを感じました。

三中 箭内（Rojima・きうり天王祭取材）

私もこれまでRojimaに行ったことはあったのですが、始めた目的や他のマルシェとの違いなどを知ることができて良かったです。さまざまな人のチャレンジの場をつくりたい、街の価値を高めたいという話を聞き、より興味を持つようになりました。

二中 深谷（Rojima取材）

チラシ作りなど夜中まで頑張ってくれてる人たちのおかげで、そこに参加する人たちのつながりが生まれていいなと思いました。

大東中 関根（古寺山自奉楽・きうり天王祭取材）

古寺山自奉楽の取材で実際にお寺に行きました。とても古く歴史を感じることができました。

三中 野川（古寺山自奉楽取材）

33年に1度しか行われない祭りでここまで続いているのがすごいなと感じました。紙などで踊り方を伝承していると話していました。

「取材で新たな気付きはあった？」

「何か挑戦したいと感じた？」

ウルトラ伝統行事調査隊！

座談会

みんなの取材の感想を聞いて、質問したいことはありますか？



今回の取材をきっかけに、伝統行事の見方が変わったり、新たに興味をもったことはありますか？

Q 須賀川市役所 伊藤

どの伝統行事も準備は大変そうでしたが、みなさんどうして続けているのか、何にやりがいを感じると言っていましたか。

A 一中 伊藤（須賀川釈迦堂川花火大会取材）

片付けとか準備は大変なんですけど、お客さんが笑って帰っていく姿を見ると、それが1番励みになると言っていました。

A 長沼中 鈴木（長沼まつり取材）

ねぶたの骨組みを作ったりするのも大変ですけど、それでも最後にはお客さんが笑顔になって帰ってくれるのがやっぱり励みになる。それで40年続けられたと話していました。

A 二中 深谷（Rojima取材）

いろいろな人のチャレンジの場を作って、店を構える人が出てきたりするのがうれしかったと言っていました。

三中 箭内（Rojima・きうり天王祭取材）

長沼まつりは今年で最後と聞いて、もっと行っておけば良かったと感じました。今年には行きたいです。Rojimaでは、街の価値を高めたいと言っていたので、私も大人になった時に協力していきたいと思いました。

岩瀬中 森合（いわせ悠久まつり取材）

祭りに参加する時は楽しいだけではなく、ちゃんと理解して、私もつないでいけるようになりたいと思いました。大人になった時にこの街にいるかは分からないけれど、いわせ悠久まつりのような地域のお祭りのボランティアに参加したいと思いました。

三中 半谷（須賀川釈迦堂川花火大会取材）

花火大会の話を聞いて、今までは友達と一緒に屋台に行って美味しいものを食べるくらいだったんですけど、綺麗な花火だけでなく、少しでもごみを減らしていきたいなって思いました。

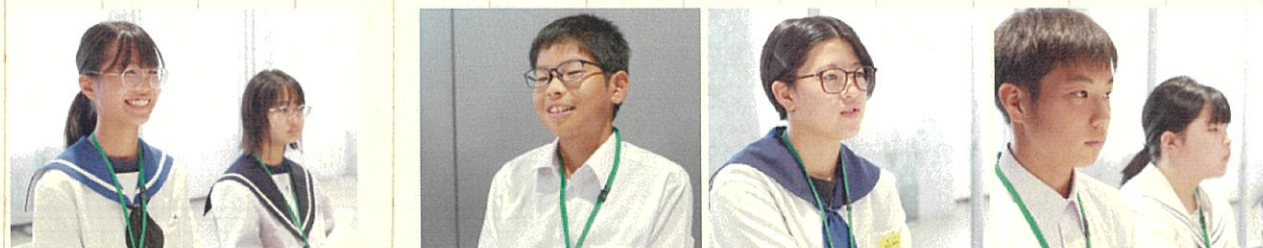
三中 野川（古寺山自奉楽取材）

まだ僕たちが知らない須賀川の素晴らしい文化があるんだよって、そういうものを伝えていってほしい人たちがすごくかっこいいんだよということを伝えたいと思いました。



長沼中 鈴木（長沼まつり取材）

長沼まつりのねぶたは昔から変わらない技術で伝わっています。私たちがねぶたのつくり方などは小学校から授業で教わっていたので、大人になった時に中学校の先輩たちから協力を得て、もう一度再建できたら良いなと思いました。



ウルトラ伝統行事調査隊の中学生は、取材を通じて、伝統行事をつなぐということの大切さ・難しさを深く学びました。これを読む皆さんも、須賀川の伝統行事とそれを支える人の思いに触れ、将来、伝統行事をつなぐ一員になってくれるとうれしいです。

つなぐノート

須賀川の伝統行事や支える人の話を読んで、
新たに気付いたことや感じたことはありますか。
あなたの気持ちの変化をこのノートに書いて、
あなた自身に、だれかに、学んだことをつない
でください。

このノートで紹介している伝統行事で、行ったことのあるものは何ですか。

ノートを読む前と後で、その行事の印象はどのように変わりましたか。

ノートを読む前

ノートを読んだ後

このノートを読んで、新たに気付いたことや感じたことはありますか。

須賀川で行なわれる伝統行事で、今後挑戦してみたいことや、
やってみたいことはありますか。

つなぐクイズ

このノートで紹介した10の
伝統行事からクイズを出題！
1問10点です。
100点をめざして挑戦して
みてください♪



Q.1

松明あかしは
約〇〇〇年以上続く火祭りです。

回答：

Q.2

きうり天王祭で
疫病を防ぎ沈めてくれる
神様は〇〇天王。

回答：

Q.3

須賀川秋祭りは「〇〇〇」と呼ばれ
る総鎮守の一番大事な祭りで、
450年ほどの歴史があります。

回答：

Q.4

須賀川市にある伝統行事で、
書物『歳時記』に登録されて
いる季語2つは何ですか。

回答：

Q.5

古寺山自奉楽で
子どもたちが踊る踊りの名称を
3つ答えてください。

回答：

Q.6

いわせ悠久まつりで打ち上げ
られる「〇〇〇〇〇〇」は
国内最大級。

回答：

Q.7

釈迦堂川花火大会後に出る
ごみは〇トン以上。

回答：

Q.8

円谷幸吉選手が銅メダルを
獲ったのは、1964年の
〇〇オリンピック。

回答：

Q.9

長沼まつりが2024年で
終わってしまうのはな
ぜですか。

回答：

Q.10

Rojimaは2025年で〇周年。

回答：

答え Q1.430 Q2.牛頭 Q3.例大祭 Q4.松明あかし、牡丹焚火 Q5.「平鍛踊り」「田植踊り」「獅子舞」 Q6.スターマイン
Q7.8 Q8.東京 Q9.新型コロナの影響でねぶた・ねぶたの参加団体が減ったから。もう一つは実行委員会の高齢化で、人がたく
さん来るような状況に対応することが難しくなったから。 Q10.10